

第2回

ヘルスニーズ

個人や家族、社会が健康を保持・増進・回復しようとする過程に生じる、解決を必要とする健康上の問題のこと。(看護学事典第2版より)

東日本大震災がもたらしたものの

宮崎 美千子 *Miyazaki Michiko*
聖母大学看護学部

ヘルスニーズとは、個人や地域社会に生じた解決を必要とする健康問題のことです。専門職としての看護は、情報収集・分析からヘルスニーズを明確にして支援することが求められます。

今回は、東日本大震災で被災した大槌町の全戸家庭訪問調査から見てきたヘルスニーズについて考えてみました。調査の目的は、①大槌町民の健康課題を明確にすること、②安否確認により津波で流失した住民基本台帳を復活すること、③早急に支援が必要と判断した場合は町役場の保健師に引き継ぎ継続的な支援につなげることでした。

この震災は巨大津波の被害が甚大で、家屋を失った住民は長期におよぶ避難生活を強いられました。

娘の家に避難していた70歳代の女性は、津波で自宅と8人もの親族を失っていました。店を切り盛りしていた方でしたが、被災後は無表情で目にも気力がありません。1日中同じ姿勢で座っていることからADL(日常生活動作)も低下していました。また、自分が生き延びたことに自責の念を覚えていて「若い人がたくさん死んでしまったのに、私みたいな年寄りが生き残って申

し訳ないです」と涙を流しながら話すのです。このように早急に解決を必要とするヘルスニーズを抱えた高齢者は少なくありませんでした。

住民の多くは家族・友人など大切な人を失っています。それだけではありません。川を逆流した津波に近所の人が助けを求めながら流されているのを何も出来ずに呆然と見送り、行方不明の家族を探して町中を歩き回り、多くの遺体を目の当たりにするなど、それぞれの被災者の心には大きな傷が残っています。眠れない、少しの音でも目が覚める、また津波が来るかもしれないのでいつでも避難できる服で寝ている、真っ黒い津波が追いかけてくる夢を見る、先が見えなくて酒でも飲んで現実を忘れるしかないなど、多くの住民がストレスを抱え生活していました。

被災によるストレスなどの健康問題を解決するには長期にわたる支援が必要で、精神科医等と連携をとりながらPTSD(心的外傷後ストレス障害)などの二次的被害を予防していくことが必要でした。

東日本大震災は、個人や地域社会に多くの解決を必要とする健康問題、ヘルスニーズをもたらしました。

日本で唯一、看護職だけの
執筆による事典。
待望の第2版ができました。

看護学事典 第2版

A5判 / 横組1200頁 / 2色刷
ISBN 978-4-8180-1601-9
定価(本体6,600円+税)



【総編集】
見藤隆子・小玉香津子・菱沼典子

【内容紹介】
項目語：約4500語 ← 約500語追加
索引語：約1万4000語 ← 約2000語追加

★本書は単なる辞典(ことばの解説)ではなく、看護学領域における事典(ことばの解説)として編集しました。

ご注文はお近くの書店、または弊社コールセンターまで
TEL: 0436-23-3271
<http://www.jnapc.co.jp/> 日本看護協会出版会